

# 平成22年度事業報告

(平成22年4月1日－平成23年3月31日)

## I. 会員数 (平成23年3月31日)

(1) 名誉会員	5名
(2) 正会員	
平成22年3月31日会員数	1,370名
平成22年度新入会員数	120名
平成22年度退会者数	337名
内訳 希望退会者	333名
物故者	4名
正会員現在数	1,153名 (217名減)
(3) 維持会員	
平成22年3月31日維持会員数	100社
平成22年度入会社数	1社
平成22年度退会社数	1社
維持会員現在数	100社 (増減なし)

## II. 機関誌送本および販売数 (各号につき)

(1) 送本数	会員区分	送本数
国内	名誉会員	5冊
	正会員	1,099冊
	維持会員	254冊
国外	正会員	7冊
	小計	1,365冊
(2) 販売数		33冊
(3) 贈呈数	箇所数	送本数
国内	12	12冊
国外	53	53冊
	小計	65冊
合計機関誌送本数		1,463冊
(4) その他		

機関誌を広告代理店に提供、バックナンバーとして販売。残部は在庫。

### III. 第 57 回通常総会

開催年月日：平成 22 年 5 月 13 日

開催場所：京都テルサ

### IV. 理事会、評議員会

#### (1) 理事会 2 回開催

① 定例 開催年月日：平成 22 年 5 月 11 日

開催場所：京都テルサ

② 定例 開催年月日：平成 22 年 11 月 18 日

開催場所：中央大学 駿河台記念館

#### (2) 評議員会 1 回開催

開催年月日：平成 22 年 5 月 11 日

開催場所：京都テルサ

### V. 定期学術集会の開催

第 57 回日本実験動物学会総会を下記のとおり開催した。

会期：平成 22 年 5 月 12 日（水）～14 日（金）

会場：京都テルサ

会長：芹川忠夫（京都大学大学院医学研究科附属動物実験施設）

参加者：933 名

### VI. 定期刊行物の発行

「Experimental Animals」および「実験動物ニュース」を下記のとおり発行し、会員に配布した。

発行年月日	巻	号	備考
平成 22 年 4 月 1 日	59	2	一部収益事業
平成 22 年 5 月 1 日	59	3（サプリメント号）	〃
平成 22 年 7 月 1 日	59	4	〃
平成 22 年 10 月 1 日	59	5	〃
平成 23 年 1 月 1 日	60	1	〃

### VII. 研究の奨励、業績の表彰

#### (1) 第 22 回学会賞受賞者を表彰した。

##### 1) 功労賞（1 名）

倉林 譲

##### 2) 安東・田嶋賞（1 名）

鳥居隆三：(滋賀医科大学)

「実験動物としての霊長類への発生工学的的手法導入による室内計画的人工繁殖と再生医療研究への活用」

3) 奨励賞 (2名)

高田豊行：(情報・システム研究機構)

「多因子形質解析とその実験モデルマウスの開発」

橋本晴夫：(実験動物中央研究所)

「糖尿病のトランスレーショナル研究支援のための IRS-2 ノックアウトマウスの系統化と特性検索に関する研究」

4) 2009 年 Experimental Animals 最優秀論文賞

目加田和之、阿部訓也、村上亜弓、中村哲枝、中田初美、森脇和郎、小幡裕一、吉木 淳：

「C57BL/6 亜系統間の遺伝的相違について」

(2) 2009 年日本実験動物学会国際賞を表彰した。

受賞者 (6名)

フィリピン : Eleonor F. Avenido

韓国 : Jong-Hwan Park

シンガポール : Judy C. G. SNG

中国 : Xiao-yang Zhao

台湾 : Wei-Chun Li

インド : V. S. Harikrishnan

(3) 第 23 回学会賞受賞者を選出した。

1) 功労賞 (1名)

玉置憲一 (実験動物中央研究所)

2) 奨励賞 (2名)

本多 新 (理科学研究所バイオリソースセンター)

「実験動物の新規幹細胞の樹立技術と利用法の開発」

高林秀次 (浜松医科大学)

「クローズドコロニーICR 系統からの自然発症変異マウスの開発研究」

3) 2010 年 Experimental Animals 最優秀論文賞

石飛博之、松本 健、浅見拓哉、伊東史子、伊東 進、高橋 智、依馬正次

「*Fli1*-GFP BAC トランスジェニックマウス：血管発生研究のための動物モデル」

(4) 2010 年日本実験動物学会国際賞の選考を行った。

受賞者 (8名)

中国 : Bai Yu

韓国 : Sung-Dae Cho

台湾	: Chin-Yu Lin
タイ	: Chadamas Promkum
フィリピン	: Laarni T. Tuason
インド	: Rahul Anandrao Thorat
シンガポール	: Ho Saey Tuan Barnabas
マレーシア	: Nur Hidayu Mazlan

#### VIII. 研究・調査活動

編集委員会、学術集会委員会、財務特別委員会、国際交流委員会、広報委員会、疾患モデル委員会、動物福祉・倫理委員会、定款・細則・規程等検討委員会、実験動物感染症対策委員会、教育研修委員会、動物アレルギー検討ワーキンググループ、新公益法人化検討ワーキンググループ、実験動物調査ワーキンググループ、産業技術問題検討ワーキンググループを設置し、活動を行った。

#### IX. 関連学協会との連携

- (1) 日本学術会議の活動に協力した。
- (2) 社団法人日本実験動物協会、日本実験動物技術者協会、日本実験動物環境研究会およびその他の国内外関連学会・協会の活動に協力した。
- (3) 国際実験動物科学会議（ICLAS）の事業に協力した。
- (4) アジア実験動物学会連合（AFLAS）の事業に協力した。
- (5) 米国実験動物学会（AALAS）など、海外関連学協会との学術・情報交流をした。
- (6) 国立大学法人動物実験施設協議会、公私立大学実験動物施設協議会等の活動に協力した。
- (7) 財団法人実験動物中央研究所 ICLAS モニタリングセンターの活動に協力した。

#### X. その他

- (1) 平成 22 年度維持会員懇談会を実施した。（財務特別委員会担当）  
「創薬評価と病態モデル動物：代謝および中枢（アルツハイマー病）疾患」  
平成 22 年 11 月 17 日、中央大学駿河台記念館、参加者：101 名
- (2) 第 3 回疾患モデルシンポジウムを開催した。（疾患モデル委員会担当）  
「精神神経疾患モデル動物とその応用」  
平成 22 年 11 月 18 日、中央大学駿河台記念館、参加者：102 名
- (3) 第 57 回総会期間中に 3 つの LAS セミナーを開催した。（教育研修委員会担当）
  - ① 命名規約
  - ② 微生物モニタリング
  - ③ 胚・精子の凍結保存

- (4) 実験動物の飼育状況に関する調査を行った。(実験動物調査ワーキンググループ)
- (5) 公益社団法人化について検討した。(新公益法人化検討ワーキンググループ)
- (6) 動物の福祉及び動物実験に関する法令対応セミナーを開催した。(動物福祉・倫理委員会／産業技術問題検討ワーキンググループ)

平成 23 年 2 月 17 日、東京大学弥生講堂、参加者：229 名